

再婚の課題に向き合う

—パートナーの子どもとの関係をどう築いていくか—

公益社団法人家庭問題情報センター 山口 美智子

暗い表情で、明さん（三十二歳）が相談室にられました。妻晴美さん（三十三歳）とは、勤務先が近かったことから知り合い、半年前に同居、結婚しました。晴美さんの息子太郎君（八歳）と養子縁組、経済的にも問題なく、家庭は一見何の問題もありません。しかし、最近、明さんは太郎君と実父（鈴木さん）との面会交流について、自分のこだわりが問題かと思いつつ、納得しきれないで悩んでいるのです。思い余って、晴美さんに「会わせるのをやめてくれないか」と、口に出してしまい、揉めたこともあります。このままでは、晴美さんとの関係も悪化する、今後実子が生まれたら一層むつかしくなると心配でたまらないと言います。

明 結婚前は、太郎はなついてくれていたんです。よい父親になると、自信もあつたのです。

でも、最近、言うことを聞かなかつたり、何か言うと黙ってしまったたり、どうしたらよいかと。

カ（カウンセラー） それで、面会交流と関係があると考えてしまうのですか。

明 ええ。晴美は『気持ちちはわかる。でも、太郎はあなたのことを好きなんだから、大丈夫』と言いますが、すっかりしません。カ どのように、気持ちの整理がつかないのですか。

明 面会交流の大切さは理解しているつもりでした。でも、本当は、最初から、嫌だったのです。

自分や晴美の親も、新しい父親ができるのだから、やめたらって。それが普通だっ

て。でも、鈴木さんは納得してくれず、回数減らしてもらいましたけれど。

カ それは一つの方法ですね。あちらも譲ってくれ、とりあえず、よかったのではないですか。

明 その時はそれでよかつた、仕方ないと思つたのですが……。

カ でも、本音では、会ってもらいたくない、そういう気持ちか抜けたいのですね。

明 太郎の父親として頑張りたい。家族を守るため、外からの刺激はできるだけ少ないほうがよい。そうではないですか。

カ 以前は、世間の多くの人がそう考えていました。親御さんも同じでしたね。

明 ええ、太郎のためにも今の家庭をしっかりと築くことが大切だと。先ではわかつてくれると思つていました。

子どもにも今の家族が大切でしょう。

カ 太郎君の気持ちはどうですか。それは、お父さんと会いたい気持ちを我慢することですよね。

明 会わなければ、だんだん気持ちは薄れていくはず。その方がよいのでは。

カ 気持ちを押し殺すこと、その方が心配では。あなたはまじめで優しい方だし、家族のかなめ。太郎君は、あなたの気持ちがわかつてるからこそ、困っている。板挟みですね。

でも、幼い彼には大変でしょうね。このままだと、先々、かえってむづかしくなるような気がします。

明 やはりそうですか。

力 わかってはいても、気持ちの整理がつけられなかったのでしょうか。

明 そうです。自分では理解があるつもりでしたが、気持ちがついて行かなくて……。

力 あちらのお父さんと会うと、気になるようです。気がかりなことがあるのか。

明 楽しかったらそれでよいのですが。

帰ってくると疲れているようで……。聞いてはいけないと我慢しています。

力 面会は楽しくても、緊張して疲れるものです。環境の変化が大きい時は特に。

それに、今のあなたには楽しい顔を見せにくいかも。

明 太郎も会うことは大変なことなんですね。それでも、会った方がよいのですか。

力 ええ。太郎君は、パパとの世界、ママとあなたとの世界、時にはママとふたりの世界、それらの重なり合いを生きています。その中で、親の実像を受け止め、経験を積み、たくましく育っていきます。

そばで見守るのが大人の責任。見守り、可愛がってくれる大人は多ければ多いほどよいでしょう。

明 そうですね。子どもががんばっているのに、大人が先に音を上げられない。

力 ええ、あなたは残念ながら、実の父親になり替われない。無理があります。でも、良き伴走者にはなれる。

見守り、いつでも手を差し伸べる大切で特別な存在にはなれるはず。その気持ちは太郎君に伝わると思いますよ。

明 父親ではなく、そばにいる大人ですか。

力 そうです。お話では、晴美さんは聡明な方ですね。子育ても力まないで、あなたの気持ちもゆったり受け止めておられますよね。

明 そうでしょうか……。

そうでした。僕や親たちがいろいろ言ってもぶれませんでした。

力 実の親になり替わる必要は何もないのです。しつければ実の母に任せ、良きパートナーとして、それを支える、それがあなたにできる大切なことだと思いますよ。

明 僕の焦りが太郎も晴美も困らせていたということですね。

力 むづかしいですが、晴美さんと結婚し太郎君を育てることは、太郎君の実の父親の存在をも受け入れることでもあります。

明 そこまでのこととは考えていませんでした。大変です。

力 楽なことではありません。でも明さんは

真剣に悩んでおられる。きっと乗り越えられます。

明 気持ちを整理します。覚悟は必要、でも頑張りすぎてもダメですね。彼女にも気持ちを伝え、太郎を見守っていきます。

生真面目な方だけに、明さんは悩んでおられたでしょう。まだまだむづかしいと言いつつも、吹っ切れたような表情で帰って行きました。

最近、四組に一組の結婚は再婚です。家族の在り方も多様化し、育った家族とは違う家族を生きる人がふえました。親の離婚に直面する子どもたちを守り育てるには、おとなたちの変化、覚悟が必要なのでしょう。



家庭問題カウンセリングルーム